

原子力規制人材育成における学校教員向け放射線教育プログラムの開発及び実践研究

Development and Practical Study on Radiation Education Program for Teachers

Using Nuclear Regulation Human Resource

*大矢恭久¹, 奥野健二¹, 萱野貴広¹, 森健一郎², 尾関俊浩², 福田善之³,
宮本直樹⁴, 中村 琢⁵, 栢野彰秀⁶, 庭瀬敬右⁷, 栗田高明⁸,
内ノ倉真吾⁹, 清水洋一¹⁰, 濱田栄作¹⁰, 寺木秀一¹¹, 小長谷幸史¹¹, 重松宏武¹²
¹静岡大学, ²北海道教育大学, ³宮城教育大学, ⁴茨城大学, ⁵岐阜大学, ⁶島根大学,
⁷兵庫教育大学, ⁸鳴門教育大学, ⁹鹿児島大学, ¹⁰琉球大学, ¹¹新潟薬科大, ¹²山口大学

本研究では教員養成課程の学生に着目し、将来の学校での放射線教育実践に向けた教育プログラムを開発・実践した。これまで3年間改善を試み、満足度を高めてきた。その結果、実習の目的を明示し、学校現場で実践できる題材を組込むことで将来の教員養成に不可欠な知識の獲得が可能になることが示唆された。

キーワード：放射線教育, 原子力規制人材育成

1. 緒言

学習指導要領の改訂により、学校における放射線教育の重要度が増しており、放射線に関するリテラシーの高い教育者の育成が求められている。そのため、大学の教員養成課程における放射線教育は重要な役割を担っている。そこで、原子力規制人材育成事業を活用し、将来の放射線教育実施教員を養成するためのカリキュラムを開発・構築・実践し、その効果について検証・改善を繰り返しながら満足度の高い放射線教育カリキュラムの構築を試みた。

2. 方法

各大学でのカリキュラムにあわせ、放射線の基礎知識に関する講義、放射線測定実習、放射線の定量評価、放射線測定器の特性実験、放射線利用に関する実験から選択して実施することとした。これらの講義・実習カリキュラム実施後に、受講生にアンケートを記入してもらい、本事業における放射線教育の効果について検証するとともに、次年度のテキストの改訂およびカリキュラムの改善を図った。

3. 結論

図に本事業における講義・実習の満足度を理系および文系学生ごとにまとめた。理系では高い満足度が得られたが、文系では理系ほど高い満足度が得られていないことがわかる。これは、実習時間の制約と講義・実習内容を理解しきれていないことに起因すると考えられる。そのため、講義・実習の動機付けやフォローアップを充実させることが必須であると考えられる。また、学校現場で使える資料を提供し、即戦力の教員養成のためのプログラムとして今後も改善していく予定である。

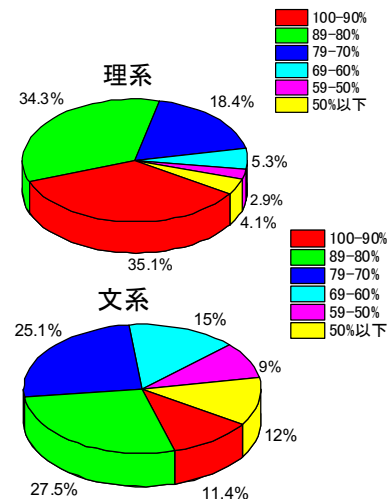


図 理系・文系における講義・実習満足度調査結果

*Yasuhisa Oya¹, Kenji Okuno¹, Takahiro Kayano¹, Kenichiro Mori², Toshihiro Ozeki², Yoshiyuki Fukuda³, Naoki Miyamoto⁴, Taku Nakamura⁵, Akihito Kayano⁶, Keisuke Niwase⁷, Takaaki Awata⁸, Shingo Uchinokura⁹, Yoichi Shimizu¹⁰, Eisaku Hamada¹⁰, Shuichi Teraki¹¹, Yukifumi Konagaya¹¹, Hirotake Shigematsu¹²

¹Shizuoka Univ., ²Hokkaido Univ. of Edu., ³Miyagi Univ. of Edu., ⁴Ibaraki Univ., ⁵Gifu Univ., ⁶Shimane Univ., ⁷Hyogo Univ of Edu.,

⁸Naruto Univ. of Edu., ⁹Kagoshima Univ., ¹⁰Univ. of the Ryukyus, ¹¹Niigata Univ. of Pharm. Appl. Life Sci., ¹²Yamaguchi Univ.